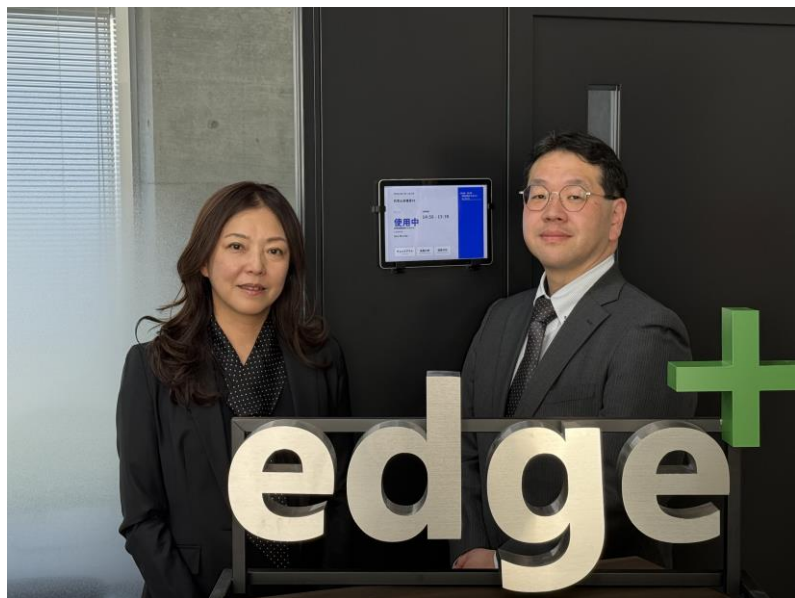


Peppolが輝かせる「主役」たち ～エッジプラス、デジタルインボイスの「自分ごと」化～

2026年2月10日、デジタル庁は、株式会社エッジプラスとの間で、政府調達システム（GEPS）に対するデジタルインボイスでの請求について「振り返り」を行いました。

株式会社エッジプラスは、GSS AMS-Coreのアプリケーション開発等に係る業務をサポートしており、その請求について、同社が利用する株式会社マネーフォワードが提供するサービスである「マネーフォワード クラウド請求書」から、GEPSに対するデジタルインボイスの方法に切替えを行いました。

Money Forward クラウド請求書



株式会社エッジプラス 木村氏及び増井氏（左から）

「振り返り」では、増井氏より「顧客毎に異なる請求方法に対応するのは業務負荷となるが、既存システムから送信できると聞き、デジタルインボイス機能を利用してみることにした。送信はボタン1つだが、一定のルールに沿って請求情報の入力内容を見直す必要があった。初回はそのルールを理解するまでに時間を要したが、今後はスムーズに進むことに期待し、継続して利用していきたい」との感想がありました。

そのうえで、木村氏から「今回の請求は、株式会社マネーフォワードのシステム改修により実現したもので、自社のニーズを受け、即座に対応していただいたことに感謝している」との謝意とともに「まずは新しい請求方法に慣れ、その経験をもってデジタルインボイスを他社へ請求する際の選択肢として検討していきたい」との展望が示されました。